

# 国語(現代文・古文) 大阪大学 法・外国語・経済・人間科学部 (前期) 1 / 5

## <総括>

出題数 現代文 2題・古文 1題

試験時間 90分

- ・Ⅰは、南方方言を母語とするマレーシア華人が、中国において正統的な北京語に基づいた独特の華語を習得せざるをえない実情や、中国王朝の文化を支えた文言文ではない話し言葉に基づく白話文の特性に依拠しながら、マレーシア華人のアイデンティティを形成するありようを、黄錦樹という文学者の生を手がかりに述べた文章からの出題であった。  
選択肢の問題が出題されたが、選択肢の文言は解釈次第で複数の理解が成り立ち、正解を確定しがたい。設問の数は前年度の五問から四問に減少した。
- ・Ⅱは、人間の「誕生」を、生物的な生殖の一環というよりも、他者とよりよい社会をつくるための個人の自由の開始点と捉えて、過去の全体主義的な国家のありようを批判しつつ、現行の国家主導の少子化対策とは異なる視点を提示する、すぐれて社会的批評精神に充ちた評論文からの出題であった。  
設問の数が、前年度の三問から五問に増加した。
- ・今年度のⅠ・Ⅱの出題内容を踏まえるならば、従来のお阪大学の国語現代文の入学試験に求められる水準の高さがあらためて提示されたと言えよう。
- ・Ⅰの設問では選択肢の問題が出題され、Ⅰ・Ⅱともに、前年度までに見られた「〇〇字から〇〇字で」というように字数に幅を設けた出題が減り(Ⅰの問四のみ)、「〇〇字以内で」という指定の形式が増えている。
- ・前年度同様に、大問の一つ(今年度はⅡ)のみで漢字の書き取り問題が四題出題されている。
- ・Ⅰ(三八〇字以内)とⅡ(五二〇字以内)を合わせた記述すべき総字数は、前年度の五七〇字程度から九〇〇字以内へと極端に増加したため、限られた時間の中で納得できる答案を作成するにはあまりに時間が足りないと言わざるをえない。

## <本文分析>

大問番号	Ⅰ	Ⅱ
出典 (作者)	「黄錦樹の華語コンプレックス」 (松浦恆雄)	「誕生を祝うために」(森川輝一)
頻出度合 ・的中等	なし	なし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ <b>変化なし</b> ・やや増加・増加)	分量(減少・ <b>やや減少</b> ・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・ <b>やや難化</b> ・難化)	難易(易化・やや易化・変化なし・ <b>やや難化</b> ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
I	評論	問一	記述式	標準	傍線部の内容について正しいものを、本文全体を踏まえて選択する問題 ※ウは「類似」、オは「白話文と呼べる」という言葉の解釈次第で正誤の判断が異なってくると言え、紛らわしい。
		問二	記述式	やや難	傍線部の例として適切なものを選択する問題 ※エは「政治の腐敗を批判」する、オは「思想を表現する」という点において、従来の王朝を支えた知識人の言葉である「文言文」よりも、話し言葉に基づく「白話文」の方が、より新しく広く社会の人々に言葉を届けることができると考えた場合、正解となる。イは、正誤いずれか悩ましい。魯迅の『狂人日記』は、白話文を用いているうえに中国の古い家族制度を批判的に記した小説とみなされうるが、そうした知識は国語現代文として本問題に求められる内容の外部の教養とも考えられ、積極的に正解とはみなしがたい。しかし、その知識に基づいて正解として選択したならば、その受験生は正誤の結果を超えて大阪大学入学に適した水準にあると指摘しておきたい。
		問三	記述式	標準	傍線部の意味を、本文の内容に即して説明する問題 (一三〇字以内) ※マレーシアの華人が、中国の文化的象徴とも言える「華語」と「漢字」を介して初めて華人となりうる経緯を丁寧に説明する。
		問四	記述式	標準	傍線部について、本文全体の趣旨を踏まえて説明する問題 (二〇〇字以上、二五〇字以内) ※黄錦樹にとっての「華語」がどのような言葉であるかを、本文全体を踏まえて論述する。

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅲ	評論	問一	記述式	標準	漢字の書き取り問題 (四題「相克(剋)」「精妙」「安寧」「大綱」)
		問二	記述式	標準	傍線部の理由を本文の内容に即して説明する問題 (八〇字以内) ※傍線部の②「個人」の特性と③「社会、共同体」のありようとの「相克(剋)」的な関係を、第2・3段落の内容から捉える。
		問三	記述式	標準	傍線部の内容について、本文の議論を踏まえて説明する問題 (二〇〇字以内) ※「アリ塚」「ナチスの全体主義国家」「誕生」という設問のキーワードの内実を、第4～6段落の内容を踏まえて捉え、設問の形式に合うように論述する。
		問四	記述式	標準	傍線部の内容を本文の内容に即して説明する問題 (一四〇字以内) ※ハンナ・アーレントが述べた「新しい政治」の意義について、第4～6段落の内容を踏まえて説明する。
		問五	記述式	標準	傍線部の理由を本文の内容に即して説明する問題 (一〇〇字以内) ※「誕生」を祝う言葉を「気軽に口にすべきではない」理由について、第8段落以降の政府の少子化対策の内容を踏まえて説明する。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

- ・ハイレベルの評論文を中心に、全体の主旨や意味段落の論旨を的確に要約する練習とともに、設問の意図を正確に理解したうえで、答案を書き出す前に的確に解答のポイントを検討・整理した上で答案を作成するという練習を重ねよう。
- ・きわめて有力な得点源である漢字問題の対策をしっかりとやっておきたい。

国語(現代文・古文)大阪大学 法・外国語・経済・人間科学部 (前期) 4 / 5

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	90分
-----	--------------	------	-----

- ・法・外国語・経済・人間科学部の出題として説話がとりあげられたのは、過去十年間で言えば、2020年度(『癡心集』)以来二度めである。ただし、年度をさらにさかのぼれば、説話は何度か出題されていて比較的良好に見られる文種である。
- ・文章の難易度は標準的だが、教科書や問題集等多くの教材に収録されている文章なので、学習経験のある受験者にとっては平易と感じられたらう。
- ・設問構成はほぼ例年どおり。
- ・説明問題について、字数制限の出題はなかった。これは前年度と同様。過去十年程度を見た傾向としては、字数制限を設ける形式での出題がよくある。
- ・例年よく見られる和歌に関する設問が、今年度は現代語訳として出題された。

<本文分析>

大問番号	Ⅲ
出典 (作者)	『古今著聞集』 (橘成季)
頻出度合 ・的中等	出典は有名。的中なし。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ <b>変化なし</b> ・やや増加・増加) 約780字 (昨年840字)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅲ	説話	問一	記述式	標準	現代語訳。傍線部二箇所。「主語を明示して」の指示がある。着眼点となる重要語句等は「まもる」「おどろく」。また、「せ給ふ」の二重尊敬にも注意。
		問二	記述式	標準	内容説明。文脈展開をふまえた登場人物の発言を具体的に説明する。「しるしなくは」の語句の意味に注意することも重要。
		問三	記述式	標準	現代語訳。和歌の訳出。着眼点となる重要語句等は「なき名」「うし」。他に「現人神」の人物を明らかにするという指示があり、古典常識の知識を問う要素もある。
		問四	記述式	標準	内容説明。設問で『古今和歌集』仮名序を引用して、この内容と問題文の主題を関連づけて説明する。受験者自身の言葉による記述・論述力が問われている。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

- ・重要古語や語法等の知識に習熟して、正確に現代語訳できる読解力を養うことが重要である。
- ・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の展開や主旨を正確に理解する練習を平素から行うしておくこと。
- ・現代語訳のみならず説明問題においても、文章全体の展開や主旨をふまえた記述力が要求されている。また、例年の傾向として、説明問題に字数制限が課されることも多いので、字数制限のある説明問題の演習も行っておくべきである。
- ・例年の傾向から、和歌について、和歌修辞や比喻を理解する学習や、説明問題をも意識した解釈の演習が必要である。